

市民参加の目的別の市民参加手法について

■市民参加の目的と、それぞれの市民参加手法の例

市民ニーズの把握	<ul style="list-style-type: none"> 市職員の派遣など 市長への手紙など アンケート調査、ヒアリング調査、市政モニター制度など 政策提案制度など 自治会、まちづくり協議会、タウン・ミーティング、懇談会など ※ ワークショップ手法の活用
合意の形成	<ul style="list-style-type: none"> 市職員の派遣など 自治会、まちづくり協議会、市民説明会など 審議会、委員会、協議会、懇話会など ※ ワークショップ手法の活用 ※ 方針決定に係る会議に参加する者は、一定の予備知識を備えて会議に臨めるような手続きが必要
計画・成果の パブリック・チェック	<ul style="list-style-type: none"> 市民説明会、パブリックコメントの募集など 評価の公表、事業仕分けなど 市長への手紙など ※ 事業仕分けなどに参加する者は、一定の予備知識を備えて会議に臨めるような手続きが必要
情報の共有・ 相互理解・交流	<ul style="list-style-type: none"> 市職員の派遣など 市民説明会、交流イベントなど 実行委員会、運営協議会など

■市民参加の目的別・政策過程段階別にみる、市民参加手法の要請（マッチング）（案）

		政策過程段階				
		課題発見	立案	実行		評価
				実施	進捗管理	
市民参加の目的	市民ニーズの把握	◎	○	△	△	△
	合意の形成	○	◎	△	○	△
	計画・成果の パブリック・チェック	-	◎	-	-	△
	情報の共有 ・相互理解・交流	△	○	◎	○	△

・参加手法の実施にかかるコストについて、予算査定段階で適切に考慮する仕組みを含める必要がある。